

05/10/04アピール - 改革ファシズムを止めに行こう (2005.10.12)

STOP THE KOIZUMI NO! FASCISM 改革ファシズムを止める
<http://nokoizumi.exblog.jp/i11>

ペガサス ホームページ <http://www.geocities.jp/chikushijiro2002/Default.html>
[「小泉改革」の政治に抵抗し抗議するブロガー同盟について](#) 経由

アピール - 改革ファシズムを止めに行こう

今度の総選挙で与党小泉政権は衆院で三分の二超の議席を占め、さらに野党民主党の翼賛転向を得て、フリーハンドで新自由主義革命を推進する合法的政治権力を得た。小泉首相と竹中平蔵はこの「構造改革の神聖権力」で、新自由主義が目的とする日本国内の二極化をさらに徹底させるべく、戦後日本がこれまで達成構築してきた福祉制度の破壊に狂奔している。OECDの昨年末の報告によれば、日本は一世帯あたりの平均所得(476万円)の半分以下しか所得のない貧困世帯の率、いわゆる貧困率が全体の15%を超えていて、この十年で二倍近くに膨らんだ。この数字はOECD加盟27カ国中5位の数字であり、先進国の中では日本は米国に次いで二番目に貧困率の高い国となった。英国の11%よりはるかに高い。ドイツは8%だ。信じられない現実である。この恐るべき格差社会はバブル崩壊後の企業のリストラと企業のリストラを扇動した政権の新自由主義政策によって齎されたが、竹中平蔵は15%の貧困率ではまだ不満の様子で、米国に並ぶべく貧困化政策の鞭の手を緩めない。



十年前は半ば冗談の言説であり、五年前は不気味な風聞であった「勝ち組」と「負け組」の二極分解は、今や日本においてリアルな社会的現実となり、「負け組」に押し込められた者は、同じ日本人でありながら生きる希望を失われている。年間3万人を超える自殺者は率比較して実質で世界一と言われている。

年間2万人台で推移していた日本の自殺者数が急増したのは、金融危機後のリストラで失業率がハネ上がった97年からであり、経済苦を理由とする中高年男性の塊が一気に数を押し上げた。一握りの富裕者が儲けるだけ儲け、贅沢三昧をして、同じ日本人の多くを貧困と絶望の地獄に突き落として喜んでいる。それを新自由主義の政権が支援している。新自由主義の政策が遂行されて幸福になるのは一握りの富裕層と米国資本だけだ。日本の福祉制度を破壊して幸福になる日本人は本来一人もいない。経済政策は国民を豊かにするために政権が行うものであるはずなのに、この国の政権は国民を不幸にし、米国に貢ぐために政治を行っている。日本人に屈辱と苦痛を与えている。

選挙のときに見たこの国の恐ろしい政治的現実に対して、我々はそれを「改革ファシズム」と呼んだ。まさか生きている間にこの日本でファシズムの政治に遭遇するとは想像もしなかったが、眼前の現実には明らかに30年代のドイツの政治的経験と酷似した様相を示している。民主主義体制下のワイマール共和国で民主主義を否定するヒトラーの独裁政治を支持したのは没落中産層だったと言われているが、あらゆる社会悪の原因と責任をユダヤ人に押し被せ、鬱屈する大衆の不満の捌け口としてユダヤ人への憎

悪を煽ったヒトラーの政治手法は、公務員を諸悪の根源と糾弾し、定職と定収を保証された公務員への怨恨を煽り立てて没落中産層の欲求不満を票にした小泉首相の選挙手法と全く同一のものではないか。周到に演出効果を計算したアジテーション、すなわち最も無知な層によく届く「わかりやすい」単純なスローガンの連発は、ヒトラーが開発して実践し成功させた政治技術であり、昨年の米大統領選でブッシュ大統領によって応用された選挙戦術でもあった。「反テロ」を「改革」に置き換えただけだ。

だが単にアジテーションや選挙戦術だけの話なら、我々はそれをまだ見過ごすことができた。どうしても見過ごせず、声を上げなければと切羽詰まらされたのは、日本のマスコミが政権と一つの「束」になったからである。郵政民営化の是非を問う選挙と言いながら、テレビは郵政民営化反対論は排除して放送しようとしなかった。初めから「改革賛成」ありきであり、郵政民営化は支持が前提であり、報道番組のキャスターたちは反対論をカメラとマイクから遮断し、視聴者の目の前で郵政民営化批判の議論を躊躇することなく乱暴に封殺した。テレビ朝日の古館伊知郎、TBSのみのもんだ。目撃者は何千万人というはずだ。日本のテレビは朝鮮中央テレビのようになり、選挙を前にして郵政民営化賛成が「多数世論」として当然視され、反対論は「抵抗勢力」の愚論として異端化された。選挙で勝つ方がマスコミによって最初から決められた。こんな異常事態はこれまでなかった。放送法の中立原則があからさまに無視侵害され、それに異を唱える者が（勇気を出して声を上げた森田実を除いて）誰も出て来なかった。

日本の民主主義を守るためにはネットの中に世論を興す以外にない。ネットに世論の力を作り、マスコミの情報操作を暴露し相対化する以外にない。マスコミの全体主義的な政治誘導と世論捏造にストップをかける言論の力を作る以外にない。そう決意してこのブロガー運動を発起した。日本の民主主義を殺し、日本人を不幸にする「改革ファシズム」を止めなきゃいけない。いまマスコミと国会で「改革」と呼ばれて翼賛されている政策の中身は、従来の日本語の言葉である「改革」とは全く異なる意味のものである。それは社会をよくするものではなく悪くするものである。福祉制度の破壊であり、国民大衆からの収奪であり、米国への植民地従属である。近代市民社会を古代奴隷社会に逆戻りさせる政策と運動の標語が「改革」である。我々はそれをまず「改革ファシズム」と呼び、その言葉を広く人口に膾炙せしめ、象徴言語たる「改革」のイデオロギー的本質を暴露してゆく。「改革」と「ファシズム」の二つが熟せしめられたこの言葉と表象が人々を説得するとき、「改革」は言語の魔力を失って政治的に没落するのだ。

かの詩人曰く、われ汝のわれを夢想者と嘲（あざけ）るを知る。されどわれは一人に非ず。われ汝の何れの日かわれらの同盟者となる日を希（こいねが）い、日本が一つとなる日を希う。改革ファシズムを止めに行こう。銀のブログの背に乗って。



by stop_the_koizumi | 2005-10-04 23:37 | アピール (10/4) | Trackback(3)

「改革ファシズム」阻止の政治へ - 新自由主義革命へのプロテスト

志士の夢を見るにはやや枯れた年になってはいる。曹操が「駿馬は老いて厩（かいば）に繋がれても志は千里を走る」と読んでいて、いつの頃からか、その詩の気分に寄り添う自分を感じるようになっていた。けれども、本当に、何事も「隗より始め」ないと始まらないというのは絶対的な真実であり、隗より始めるためには若返らないといけない。自分はまだ若いのだと自分に言い聞かせて信じなければいけない。「革命の初動期は詩人的な予言者があられ、「偏僻」の言動をとって世から追いつめられ、かならず非業に死ぬ。松陰がそれにあたるであろう。革命の中期には卓抜な行動家があられ、奇策縦横の行動をもって雷電風雨のような行動をとる。高杉晋作、坂本竜馬らがそれに相当し、この危険な事業家もまた多くは死ぬ。それらの果実を採って先駆者の理想を容赦なくすて、処理可能なかたちで革命の世をつくり、大いに栄達するのが、処理家たちの仕事である。伊藤博文がそれにあたる」。(文春文庫 第二巻 P.148)



これは小説『世に棲む日日』の中で司馬先生が述べている革命の三世代論だが、フランス革命（Rousseau・Robespierre・Napoléon）についても、またロシア革命（Marx・Lenin・Stalin）についても妥当する普遍的な真理であるように思われる。何年か前、いま日本に必要なのは第一世代の松陰、つまり「非業に死ぬ予言者」だと思ったことがあり、心のどこかで、自分がその役を引き受けようかと誇大妄想していたことがある。誇大妄想には違いないけれど、今の日本にどうしても必要な一人の予言者がどこからも現れない。姿を見せてくれない。けれども、松陰の前に松陰に影響を与えた人間が何人もいたことを考えれば、挑戦の意思を言い続けることは無駄ではないだろう。情勢は確かに煮詰まっている。煮詰まっていることは誰もが実感していることだ。この国に大きな崩壊なり転換なり変革のときが近づいていることは誰の目にも明らかで、日本人と官僚の得意技であった「先送りの自己欺瞞」の術が限界に達している。

前にコミュニストギャルのカッシーニに説教を垂れて、政治とは君の隣にいる一人を渾身の言論で説得して、同意を調達し、同志を作ることだと言った。同意の調達と合意の形成、それが政治だと言った。が、もう一つ続きがある。それは多数を組織することだ。同意を調達し、合意を形成し、多数を組織すること。その循環が政治である。そして権力を獲得して理想と目標を地上に実現する。「世に倦む日日」の目ざす目標は「改革ファシズム」から日本を救うことである。小泉政権を打倒して新自由主義革命の暴走を阻止することである。日本経済を米国資本による植民地支配の魔手から防衛し、グローバル資本主義の侵略から解放することである。米国から独立した日本を作ることである。中産層の勤労と生活を再建し、中産層家庭の所得と教育を再興することである。日本人一般が生きる希望を取り戻すことである。日本人一人一人が、「勝ち組」でもない「負け組」でもない「普通の日本人」の自己認識と社会的立場を取り戻すことである。

「普通の日本人」として誇りを取り戻すことである。世界中から羨ましがられる豊かで生産的な理想の高齢化社会を作ることである。雇用の安定保障と市場競争力の保持を統一して実現する新しい企業原理を創出することである。高度な福祉国家を再構築することである。勤勉で節約する日本人像、浪費せず貯蓄する日本人像を再建し、一人一人が集団の中で目標を持ち、能力を開発し、個性を実現する生き方を持ち得ることである。教育に投資し、どの国にも、どの教科の成績でも負けない世界一の教育王国を実現することである。戦後民主主義の理念を情報化社会のハイレベルな次元で現出達成することである。日本のデモクラシーの理想をネット市民社会として実現させることである。アジアの指導国として日本国憲法の平和主義をアジア全体に教化伝道することである。9条の理想を国連総会で宣唱し、第三世界諸国代表から総立ちの拍手喝采を得ることである。米国の武力支配主義と対決し世界を平和に導く先頭に立つことである。

そして日本人は自信と誇りを取り戻すのだ。不況から立ち直り、財政を立て直し、中産層を蘇らせ、市場競争力で他国資本を凌駕し、米国の「帝国支配」の頸木から脱し、新自由主義とは異なる成功体験と成功原理を世界に提示証明して、アジアとヨーロッパの諸国民から賞賛と尊敬を受けるのだ。そういう日本国と日本人にすることが「世に倦む日日」の理想であり目標である。それは政治によって実現される。そしてそれは必ずできる。夢ではなく実現可能である。できないと思うのは新自由主義のイデオロギーに洗脳され、新自由主義の勢力に怖気づいて自信喪失しているからだ。日本人の自己不信を米国と政権とマスコミに刷り込まれて自己暗示にかかっているからだ。世の中に「勝ち組」と「負け組」しかないと思込まれているからだ。新自由主義のマインドコントロールを払拭すれば日本人は必ず蘇生回復する。これから分析だけでなく政策と行動の提案と提言に踏み出そう。政治の一步に動く。最初に「反小泉」のネットワークを試みしてみる。

そこで挫折すればそれまで。隗より始める。プロテストとしての平成の尊皇攘夷運動を行動提起しよう。



by [stop_the_koizumi](#) | 2005-10-02 23:45 | [アピール \(10/4\)](#) | [Trackback](#)